

【シニア A オープン】

キャプテン 上原 正樹
事務局 前原 寛之

【出場選手】

(1) 沖縄老龍 (沖縄龍舟シニアチーム)

小菅聖子、上原正樹、池村崇志、若狭和也、横田貴、平良幸二、高橋孝一郎、
前原寛之、川上正紀、大田守秀、酒匂裕充、川端英樹

(2) 東京龍舟

尾寅慎介

【戦績】

■ 2025年7月15日：2000m

・ 14チーム中11位(内1チーム棄権)：タイム 10：17.503

(上位8チームのタイム)

Ukraine 9:26.550, United Arab Emirates 9:38.883, Hungary 9:40.788, Poland 9:43.847

Germany 9:46.052, France 9:47.089, Czech Republic 9:47.423, China 9:52.300

■ 2025年7月17日：200m

・ 予選：8チーム中6位(内1チーム棄権)：タイム 53.546

・ 敗者復活5チーム中2位：タイム 53.749

・ Grand Final：8位

China 49.867、Ukraine 50.013、United Arab Emirates 52.348、United States 52.492

Hungary 52.565、Australia 52.948、France 53.094、Japan 53.148

■ 2025年7月19日：500m

・ 予選：7チーム中5位(内1チーム棄権)：タイム 2:21.337

・ 敗者復活3チーム中3位：タイム 2:19.643 (敗退)

Grand Final

China 2:08.985、Ukraine 2:09.788、United Arab Emirates 2:12.825、United States 2:13.102

Hungary 2:14.526、Australia 2:15.819、Czech Republic 2:16.248、Poland 2:16.465

■ 総括：

2024年9月の日本選手権直後より、沖縄チームとして世界大会初参戦に向けて「ONE TEAM」を合言葉に練習に励んで参りました。結果としては、各カテゴリーで3位内の入賞

は果たせませんでしたでしたが、200mレースでは grand final まで残れたことは、チームメンバーの今後、練習活動が続けていくためのモチベーションに大きく繋がったと考えております。

沖縄では、ハーリー文化が各地域に浸透しておりドラゴンボートの大会開催時期が重なることも多く（沖縄龍舟メンバーも各ハーリーチームに所属）、これまでは練習メンバーを集めるのに苦労することもありました。

世界大会への参加メンバーは、今シーズンは各ハーリーチームから離れ、ドラゴンボート日本代表として世界大会に挑むためにカーボンパドル、漕ぎ方、舟になれることに集中して練習を積んでまいりました。満足する成果は出せませんでしたでしたが、今回の世界大会をきっかけに県外、海外への大会へも積極的に出場を目指し、ドラゴンボート競技の普及、強化の一助となれるチームを目指していきたいと考えております。

■各レースについて

・2000m

スタートは良かったと思います。中盤からは海外勢パワーの差を感じましたが後半にかけて体格の大きい外国人は失速し後半勝負だと想定しておりましたが、そんな事はなく完全にパワー負けでした。フィジカル面、テクニク面での差は大きく、力の差を感じさせられる結果となった。

・200m

予選の結果6位でしたが上位チームとの差がさほどなくメダル圏内だと思えた種目でした。スタートは問題なく、中盤から後半の粘り（ストロークの長さ、ブッシュ）が少し足りないと感じたレースでした。

・500m

予選組では上位2位までには入れないとチーム内で話し合い、敗者復活に勝負をかけました。スタートで想定レートより上げすぎてしまい中盤でも戻せず後半失速し敗退。ものすごく後悔するレースでした。通常通りのレース展開であれば Grand Final まではいけたカテゴリー。

■レースを終えての考察

当チームで感じたのは、各カテゴリーのレースレベル、参加国のレベル等の研究、分析をしっかりと行う必要性を強く感じました。レースプランの組立によっては、各カテゴリーで上位にいける可能性がありますし、特に短距離の僅差のレースになれば特に必要だと思慮します。

また、ナロー艇（BUK）など舟の特性の研究も必要だと感じました。舟が軽くスピードも

出るのですが、レース前に高ピッチ漕方がいいのかストローク重視の方がいいのかを確認できなかったのは損失でした。(日程が前倒しとなり、練習日がなくなってしまったため。) また、同じナロー艇(大連)とは違いシート間の幅が広く(特に4番、5番)、喫水も低く水面が近く感じ漕ぎ方に少し慣れが必要だと感じました。

■チームの運営、練習等

大会前：

世界大会へ出場するにあたり、選手登録、旅費の支払管理、ユニフォーム準備など分からないことも多く、JDBA、他チームの諸先輩方にアドバイスを頂きつつ準備を行った。事務的な手順等については、基本的な事項については、事前に確認できるようリスト化されていると助かります。

日本選手権以後から長期の練習期間であり、他チームとの交流レース等でモチベーションアップにつながるものがあったとしてもいいかもしれません。(例えば、世界大会等へ出場するチームを国内大会へ招聘するなど。)

大会期間中：

フライトでの移動時間も長かったですが、宿泊施設等は快適であり特に問題ございませんでした。

大会会場までの移動距離・時間は、正直疲れました。宿の手配等難しい点も多いと思いますが、30~1時間以内の移動に収まるとレースへの影響を少ないと思慮します。

最後に

本大会参加に向けてご尽力いただいたJDBAならびに各チーム関係者の皆様に深く感謝申し上げます。今後の日本ドラゴンボート界のさらなる進化を願いまして最後の言葉とさせていただきます。